

Contents

- 1) 学会からのお知らせ
- 2) 健康心理学コラム vol. 75 堀毛 裕子 (東北学院大学)

1) 学会からのお知らせ

■会員情報の変更は3月末までに (財務委員会)

まもなく新年度ですが、所属や住所、メールアドレスなどが変わる方は、必ずお手続きください。学会 HP の会員専用ページ (<https://bunken.org/jahp/mypage/logins/login>) から、手続きができます。

パスワードが分からない場合は、事務局 (jahp-post@bunken.co.jp) までご連絡ください。会員種別の変更や退会希望も、3月末までに上記へお願いします。

■2019年度 アーリーキャリアヘルスサイコロジスト賞について (国際委員会)

2019年度も日本健康心理学会に所属する若手研究者および Early Career 研究者による国際学会大会での優れた発表を表彰することになりました。

応募期間は3月1日から3月31日までです。詳細につきましては、学会ウェブサイト掲載情報 (http://jahp.wdc-jp.com/pdf/2019_health.pdf) をご参照ください。

2) 健康心理学コラム Vol. 75

「私の研究関心」

堀毛 裕子 (東北学院大学)

はるか昔の大学院時代に沖縄シャーマニズムの研究プロジェクトに参加し、心身不調への伝統的な意味づけにより、患者ではなくユタ (シャーマン) として地域の中で役割を果たす状況を見て以来、健康と病気の相対性や病気の意味づけに関心を持ってきた。その中で locus of control や sense of coherence 等の健康に関連するパーソナリティ特性を研究してきたが、最近ではポジティブ心理学的介入 (Positive Psychological Intervention: PPI) に関心を持っている。

地方一般病院でスタッフが実施しやすい心理的支援として、乳がん患者に PPI を行ったところ、1年後の心理的健康に介入の効果が認められた (堀毛, 2017)。東日本大震災における現地支援者としての体験からは、被災者を無力な被害者と見なすのではなく、個人の持つ力を尊重する支援の必要性を考えさせられたが (堀毛, 2019)、PPI は侵入性が低くこれに適合するものと考えられる。現在、さまざまな逆境を体験した人々を対象に PPI を行い、その効果を検討中である。人間の持つ力を尊重し、個人やその問題を病理化して見ることなく、より健康な側面を強める支援法として、PPI のさらなる研究が望まれる。

他方、おもにアメリカを中心とするポジティブ心理学に対して、ヨーロッパを中心とするクリティカル心理学の視点も重要である。生活習慣病に悩む人々もいる一方で、飢えや戦乱に苦しむ人々があるに多い世界の現状を考えれば、健康心理学も一部の価値観

や格差の中に囚われることなく、広く人々の健康に寄与する学問と実践

の領域として展開することが求められよう。

文献

堀毛裕子 (2017). 乳がん患者へのポジティブ介入への試み. 太田信夫 (監)・竹中晃二 (編) 『シリーズ心理学と仕事 12・健康心理学』 北大路書房 p.131.

堀毛裕子 (2019). 災害時における心理的支援を考える—成熟した支援の提供を目指して—. 東洋大学 21 世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター編 『現代人のこころのゆくえ 6』 東洋大学 21 世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター pp.23-46.

日本健康心理学会広報委員会

<http://jahp-public.blogspot.jp/>

メールマガジンの配信停止、アドレス変更は下記アドレスまで

日本健康心理学会事務局 <jahp-post@bunken.co.jp>

メールマガジンへのご意見・ご感想は下記アドレスまで

広報委員会 <jahp-ML@bunken.co.jp>

過去のメールマガジンは、こちらからご覧いただけます

<http://jahp.wdc-jp.com/health/health1.html>